

# 田辺かずき (42歳)

討議資料

1980年5月16日生まれ

出身：福岡県古賀市

家族：会員の妻、高校1年の長男、小学6年の長女

尊敬する人物：両親、福澤諭吉、出光佐三

好きなスポーツ：ラグビー、水泳、テニス、野球、サッカー

好きな音楽家：サザンオールスターズ、椎名林檎、東京事変、

ドリームズ・カム・トゥルー

好きな作家：夏目漱石、平野啓一郎、山崎豊子、横山秀夫、

綿矢りさ

好きな漫画：手塚治虫の作品、「島耕作」シリーズ、

「家裁の人」、「博多っ子純情」

好きな俳優：深津絵里、堤真一、菅野美穂

好きなドラマ：「東京ラブストーリー」「恋ノチカラ」

「沈まぬ太陽」

特技：珠算・暗算（花見そろばん教室 OB）

1987年/暁の星幼稚園 卒園（古賀子ども劇場会員）

1993年/花鶴小学校 卒業（第2回少年の船参加）

1996年/古賀中学校 卒業（生徒会長を務める）

1999年/福岡県立福岡高校 卒業（高校51回）

2003年/慶應義塾大学法学部法律学科 卒業

毎日新聞社 入社/福井支局 配属

2006年/大阪本社社会部 配属

新聞記者時代は、橋下徹知事の大阪府政、大阪府警刑事部捜査2課・生活安全部・交通部などを担当。原発事故、豪雨や豪雪、地震といった大規模災害、拉致問題、身体障がい者補助犬、貧困、春夏の甲子園、地域活性化の取り組みなどを取材。「現場主義」を貫くことになる原点。

2011年/福岡県議会議員 初当選

2015年/福岡県議会議員 2期目当選

30歳から8年間の県議の任期中、全ての定例会本会議で登壇し、多くの政策を知事に提案。農林水産や厚生労働環境などの委員会にも所属。福岡県タイ友好議員連盟の事務局長として福岡県への総領事館誘致も実現。

全国各地の若手政治家のネットワークを形成し、骨髄移植ドナーに対する助成制度の政策展開はマニフェスト大賞で最優秀政策提言賞を受賞。

2018年/古賀市長 初当選

田辺かずき後援会事務所  
〒811-3119 福岡県古賀市美郷 129  
challenge@tanabe-kazuki.jp

## 古賀の新たな時代を拓く 未来への責任

# 田辺かずき 42歳

## 政治家のネットワークを生かす —古賀市が全国とつながる

私は、政治家として、全国に党派を超えた人間関係のネットワークを築くことに努めています。「活力ある地方を創る首長の会」（会長＝鈴木康友・浜松市長）や「公民連携推進全国首長フォーラム」（会長＝野田義和・東大阪市長）をはじめ様々な有志のグループに参加し、多くの首長の皆さんと信頼関係を深めるとともに、政府と地方自治体との連携の強化を図っています。また、県議時代からの全国の国会議員、地方議員の皆さんとの交流も、古賀市の政策推進につながっています。

岡山県総社市長 片岡聡一様

『日本全国に815人の市長がいますが、ちょっとだけ先輩の私から見て、田辺かずきさんは若手の市長ではピカイチです。市長職は経験や知識がもちろん大切ですが、もっと市民の幸せのために必要なものは、田辺さんが持たれている古賀愛と類稀な圧倒的な責任感の強さです。災害もコロナも、最終責任者は市長。今や「優秀な市長を有している市は成長する」という事実が全国の共通認識です。田辺さんこそ古賀市に最も相応しい人物だと確信しています。』

東京都台東区議会議員 本目さよ様

『田辺かずきさんとは彼が県議時代から若手の政治家仲間として一緒に活動してきました。市長になってからは、より先進的な政策を推進していて、若手女性議員向けの勉強会の講師をしていただき、参加者からは「自分の自治体でもこのようなきめ細やかな子育て支援を実施したい！」との声が上がりました。逆に私からも田辺さんにICT導入の先進事例をお伝えしたりしてきました。これから、さらに古賀市をよくしてくれると信じています。』

## 現場主義と危機管理

『「でんでんむし」を開き続けてくれてありがとうございました！』

ある子育て支援のイベントで、小さなお子さんを連れられたお母さんから声を掛けられました。「でんでんむし」とは、サンコスモ古賀に設置している乳幼児と保護者の憩いのスペースのこと。親子同士の交流ができ、相談にも応じています。子育て中の親にとって、誰かと話せることはとても大切です。

新型コロナウイルス感染症が拡大し、緊急事態宣言が発令された当初、全ての公共施設を閉鎖せざるを得ない中、私は「でんでんむし」だけは開き続ける判断をしました。なぜか。子育て家庭が社会から隔絶すると、別のリスクが生じると考えたからです。数カ月後、児童虐待の潜在化を防ぐ取り組みとしてメディアに取り上げられました。

私は、「現場主義」を活動の理念とし、「対話」と「交流」を起点に、市民の皆さんの「声」を政治に反映することを大切にしています。そして、市民の皆さんが「政治が手元にある」と実感できる市政をめざしています。

しかし、パンデミックの当初、コミュニケーションが制限され、誰もが暮らしの「現場」で具体的に何が起きているのか、つかみきれませんでした。だから経験を踏まえ、「起きているであろうこと」は何かと「想像力」を働かせました。

感染拡大防止策を講じながら、事業者や経済的困窮、高齢者、障がい者、そして、子育てと教育に何が 필요한のか、考え、対策を打つ。「でんでんむし」を開き続ける判断はその一つの事例です。

この4年間は、危機管理の重要性をあらためて実感する時間でもありました。



政治活動を連日発信中！



田辺かずき



## まちの力を引き出す

古賀市は暮らしやすく、働きやすい。都市近郊で自然に恵まれ、農業・商業・工業が息づく、魅力的なまちです。九州自動車道のインターチェンジがあり、国道3号線、国道495号線、筑紫野古賀線といった主要道が走り、JR鹿児島本線の駅が3つもある交通の要衝。この特性を生かし、まちづくりが進められてきました。

日本は少子高齢化が進み、人口が減少しています。福岡都市圏に位置する古賀市もその大きな流れとは無縁ではありません。

だからこそ、今、地域の特性を生かし、どんどんチャレンジをしていかなければならない。そう考え、この4年間、「オール古賀」を掲げ、自治体経営に挑んできました。

まちの持続可能性を高めるため、産業力を強化すること。新たに工業団地や物流団地を形成し、企業立地を促進する。中心市街地の古賀駅周辺を活性化。高品質な農産物の生産を支援する。一人一人を大切にすること。子ども子育てを支え、教育環境を整える。シニアの健康づくり、生きがいづくりを応援する。誰もが生きやすい共生社会をつくる。歴史や風土、文化、私たち人間のネットワーク、魅力あ

る地域資源を生かすこと。宗像市や福津市、糟屋郡などとの広域的な連携で地域振興につなげる。デジタル化など社会の変化に即応し、新たな価値を生み出す。こうして、まち全体を元気にする。

これからも「現場主義」を理念として、市民の皆さんと共に歩みたい。今の古賀を築いてきてくださった人生の先輩方、先人の皆さまのご尽力に感謝し、継ぐべきものを確実に継ぎ、社会の価値観の変容を捉え、新たな発想を加え、前に進んでいく。

子どもたち孫たち、これから生まれてくる世代のためにまちをつくり、未来への責任を果たす。古賀の新たな時代を拓く。その決意です。



# 古賀市のためにしていきたいこと

## ◆産業力の強化と移住定住の促進

### ◎交通結節点の「地の利」を生かした

#### 適正な土地利用と企業誘致の推進

将来の税収確保や雇用の創出のため、古賀 IC 周辺の今在家、新原高木、大内田の各地区で工業・物流団地を整備します。新たに、青柳迎田地区で工業団地の形成を検討します。

農業の生産性向上を図るため、薦野清滝地区の基盤整備事業を推進します。農地保全や農業用施設の維持・管理、デジタル技術の活用、鳥獣被害や放置竹林の対策を支援します。地産地消の拠点「コスモス館」の機能を強化します。

居住機能を強化するため、古賀中学校周辺の市街化をめざした土地利用を検討します。

### ◎中心市街地の古賀駅周辺活性化と

#### 「コンパクト・プラス・ネットワーク」の形成

古賀駅東口エリアの開発を推進します。道路や公園、居住や商業、医療、教育などの多様な機能を集積し、誰もが居心地の良い街並みをめざします。古賀駅西口エリアは、空き店舗改装による拠点形成や新たな事業者の進出を支援し、市内外の人々の交流を促進します。新たな道路整備による駅周辺へのアクセス強化を検討します。AI オンデマンドバスなど多様な手法で持続可能な公共交通網を形成します。中心市街地と小野地域や青柳地域をつなぎ、一体的な発展をめざします。

千鳥駅東口にロータリーを整備します。西鉄宮地岳線跡地は安全・安心を前提に道路や遊歩道、憩いの空間を形成します。花見佐谷線の整備を進めます。

薬王寺温泉オフィス「快生館」へのサテライトオフィス誘致やコワーキングスペース利用、イベントでの活用を促進し、多様な人材の交流で新たな価値を生み出します。

国史跡・船原古墳、唐津街道・青柳宿、白砂青松の海岸、薦野城をはじめ観光資源の活用を推進します。「立花宗茂と閻千代」の大河ドラマ招致運動を展開します。

## ◆チルドレン・ファースト

### ◎すべての子どもと子育て家庭を見守り、 包括的に支える体制を強化

妊娠期から出産、乳幼児期を切れ目なく支援します。産前・産後ケア、発達段階に応じたきめ細かな相談支援体制を強化。すべての子どもの誕生をお祝いし、赤ちゃん用品や子育て応援券を贈ります。

多胎児家庭の家事・育児を支援します。経済的に厳しい妊婦に産科受診料を助成します。「ペリネイタル・ロス」のケアの充実を図ります。ひとり親家庭や未就園児、障がい児、ヤングケアラーを支え、子どもの貧困対策、児童虐待防止に取り組めます。

十分な保育の受け皿を確保し、質の高い幼児教育・保育サービスを提供します。

### ◎子どもの医療費助成を拡大し、就学前を無料化

3歳未満に加え、まずは3～6歳を無料化します。そのうえで、18歳までの拡大も検討していきます。本来は国の責任で全国一律に実施すべきものであり、全国市長会を通じて18歳までの無料化を政府・国会に強く働きかけます。

### ◎みんなで子どもの学びと育ちをきめ細かく支え、 「生き抜く力」を伸ばす

全小中学校・全学年での原則35人以下学級、多様な人的配置、デジタル機器の積極活用で、一人一人のニーズに応じた教育を実現します。インクルーシブ教育を推進します。校舎改修を着実に進め、トイレを洋式化・多目的化します。地域の特性を生かした余裕教室の活用で多世代の交流促進を図ります。地域や子ども支援団体と連携して居場所を確保します。通学合宿などの多様な体験活動を後押しします。

あらゆる世代の生涯学習活動を応援し、スポーツ・文化を振興します。県と連携し、古賀市の特性を生かした新たなスポーツ関連施設を検討します。



## ◆誰もが健康で安心して暮らしていける地域社会

### ◎超高齢社会に対応し、 健康づくり・介護予防、地域福祉を推進

全世代型の健康づくりを推進します。地域や学校、企業、市民団体と連携し、健康チャレンジ10か条やヘルス・ステーションの普及促進、特定健診やがん検診の受診勧奨に取り組み、市民一人一人が自らの健康を意識できる環境をつくります。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、地域包括支援センターできめ細かく相談に応じます。要介護などで移動が困難な方のごみ出しを支援します。認知症への理解を促進します。高齢者のペットとの暮らしを支援します。千鳥苑は当面は現建物で社会福祉サービスを提供し、老朽化を踏まえ、今後のあり方を検討します。

障がい者福祉を推進します。個々のニーズに応じた日常生活のサービスを提供し、事業所や企業と連携して就労を支援します。

高齢者の独居、8050問題、介護と育児のダブルケア、孤独・孤立など複雑化・多様化する課題に対応するため、ソーシャル・ワーカーなど専門職による包括的な相談支援体制を充実します。

### ◎ゼロカーボンシティとして環境にやさしいまちへ ワンヘルス推進

人と動物の健康、環境の健全性は一つのものとする「ワンヘルス (One Health)」の理念のもと、世界の先進地である福岡県と連携し、人と動物の共生社会づくり、生物多様性の保全、地球温暖化対策などに取り組めます。

脱炭素社会に向けて企業連携による取り組みを検討します。4R推進によるごみ減量と適正処理を推進します。

### ◎デジタル推進による市民サービスの向上

市役所の様々な手続きのオンライン化を推進するとともに、業務効率化で人的資源を多様な課題解決の政策立案に振り向け、市民サービスの向上を図ります。高齢者を中心としたデジタル格差解消のため、きめ細かく支援します。

### ◎人権と多様性 (ダイバーシティ) を尊重し、 平和を希求する先進都市へ

私たち一人一人が大切にされ、自己実現を図れる地域社会へ。部落差別をはじめあらゆる差別を許さず、人権尊重の市政運営を徹底します。LGBTQ など性的マイノリティの権利保障を進め、性の多様性への理解を広げます。男女が共に能力を発揮できるジェンダー平等社会をめざします。アジアや欧米との国際交流、多文化共生を推進します。

名誉市民の中村哲さんを顕彰し、その志と功績を次代につなぎます。平和首長会議や日本非核宣言自治体協議会のメンバーとして核兵器廃絶と世界平和をめざします。

## ◆危機管理の徹底

大規模災害や感染症の流行に備え、即応します。消防団の活動を支援し、自主防災組織との連携を強化します。

## ◆「オール古賀」のまちづくり

誰もがまちづくりに関われるよう、政策づくり、予算編成を「見える化」します。地域ごと、政策ごとの対話集会を開催します。SNS やブログを活用し、即時的に情報を発信します。子どもたちの声を聴き、市政運営につなげます。古賀の魅力を発信するシティプロモーションを強化します。古賀の関係人口を増やし、連携し、まちづくりを進めます。



Let's challenge the future with All KOGA Citizens.